

## やまぐち学習支援プログラム「学力定着状況確認問題」を振り返って

実施状況について

やまぐちっ子学力向上だより第42号で、学力定着状況確認問題の積極的な活用をお願いしましたが、県内のすべての公立小・中学校でこの問題が活用されており、各学校では、その後の状況について、成果や課題を明確にし、改善に向けた取組を進めておられることと思います。

今回は、県内全体の結果を踏まえて明確になってきた課題をいくつか紹介します。各学校においても、こうした分析を参考に、改善に向けた取組が一層進めていただきますようお願いいたします。

小学校国語から

### 条件に従って記述すること

次の問題は、小学校3年生の「目的に応じて適切な文章を書く」問題です。この問題のように条件に従って記述することは、これまでの全国調査等においても、本県では継続して課題として挙げられている内容です。小学校の早い段階から、発達段階に応じて書く場面を設定し、条件に応じた記述の仕方の指導を行うことが大切になります。

これから寒くなりますが、体をだいにしてください。

⑳ おばあさん、お元気ですか。わたしは、元気にすごしています。この前、学校で、音楽集会がありました。わたしたちのクラスは合奏をしました。それで、校長先生にほめられました。もうすぐ冬休みになります。

イア ていねいなことばで書くこと。一つの文で書くこと。

問2 ゆう子さんには、はがきのうらに、左にあるような文しように書きました。には、冬休みに行くと、ついでに、公園に行つてほしいこと」を書くことにしました。次のア・イに合うように、の中に書きましよう。

五 ゆうさんは、となりの市に住んでいるおばあさんに、はがきを出すことにしました。次の問いに答えましょう。

正答率  
26.6%  
無答率  
7.8%

小学校算数から

### 量感（面積についての感覚）を身に付けていること

次の問題は、H20全国調査の際に、本県の正答率が14.6%と大きな課題として捉えられた問題です。当時よりは改善が見られるものの、正答率は決して高いとはいえ、今後も指導の重点化を図りたいものの1つです。

(2) 約  $150 \text{ cm}^2$  の面積のものを、下の 1～4 までの中から 1 つ選んで、その番号をかきましょう。

- 1 切手 1 まいの面積
- 2 年賀はがき 1 まいの面積
- 3 算数の教科書 1 さつの表紙の面積
- 4 教室 1 部屋のゆかの面積

正答率

第 5 学年 24.6%

第 6 学年 36.3%

⑧

中学校数学から

### 学び直しの機会の充実を図ること

中学校 1 年生の数学では、**⑧**の⑯から⑳の 5 問において、中学校数学でも活用する必要がある小学校算数での学習内容を出題しています。この 5 問の正答率はいずれも高くなく、中学校での指導に当たっては、このような実態を踏まえて、小学校算数の学習内容について学び直しの機会を充実するなどの工夫が求められます。

- ⑯ 「数量を等分したときの 1 つ分を分数で表すこと」 53.4%
- ⑰ 「割合の大小を判断し、その理由を説明すること」 36.4%
- ⑱ 「割合が一定のとき、比較量が最大になる基準量を判断し、その理由を説明すること」 54.6%
- ⑲ 「円柱の体積を求めること」 52.5%
- ⑳ 「点対称な図形をかくこと」 66.6%

## 「やまぐちっ子の学力を育む検証・改善委員会」報告

検証・改善委員会のまとめ

やまぐちっ子学力向上だより第 4 3 号で、やまぐちっ子の学力を育む検証・改善委員会についてご紹介しましたが、この度、同委員会の報告がまとめられました。特に、国語、算数・数学、理科の 3 教科については、これまでの調査結果等を踏まえた具体的な授業改善のポイントなどが示されています。

### 調査結果等から見られる課題【小学校】

- 【国語】◎ 目的に応じて必要となる情報を取り出し、それらに関係付けて読むこと
- ◎ 条件に従って自分の考え等を書くこと
- 【算数】◎ 割合の意味を理解すること
- ◎ 数学的な表現を用いて、必要な事項をみれなく記述すること
- ◎ 系統性を踏まえ、統合的に考えること
- ◎ 量感を養うこと
- 【理科】◎ 観察・実験の結果を整理し考察すること
- ◎ 科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりすること

詳細は、義務教育課ホームページにも掲載していますので、ぜひご覧いただき、各学校での学力向上の取組の参考として、ご活用ください。

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50900/zen-gaku/20130122001.html>